

第9回「山形県家計消費動向調査」結果 (平成20年9月調査)

平成20年9月

株式会社荘銀総合研究所

目 次

I. 今月の消費指数（総括）	1
II. 調査結果	3
1. 景気判断と見通し	3
① 県内景気	3
② 雇用環境	3
③ 日用品価格（物価）	4
2. 暮らし向き判断と見通し	6
① 世帯（勤労）収入	6
② 資産価値	6
③ お金の使い方（支出状況）	7
④ 生活のゆとり	7
3. 日常の買い物に関する判断と見通し	9
① 嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）	9
② ファッション衣料・靴など	9
③ 家電・AV製品、家具など	10
④ 金融商品（株式、債券など）	10
⑤ 娯楽・レジャー	11
⑥ 習い事	11
⑦ 交際費	12
4. 大きな買い物に関する判断と見通し	13
① 自家用車	13
② 住宅の購入・リフォーム	13
III. 今月の家計簿	14
IV. 調査の概要	15

I. 今月の消費指数（総括）

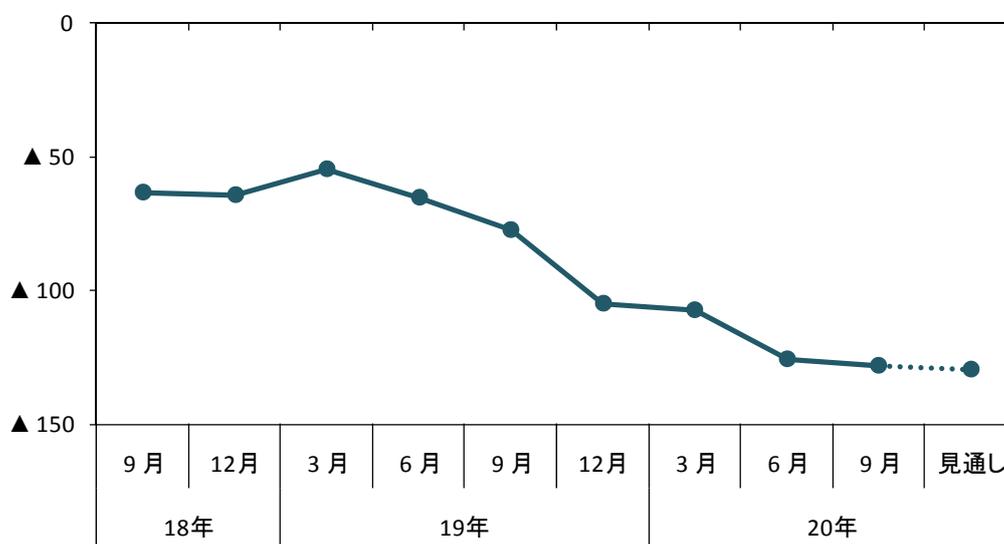
★ 消費指数は▲128.0 ～ 消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況 ～

消費指数は前回調査時点（平成20年6月）よりも2.7ポイント低下し、▲128.0となるなど、引き続き消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況が続いている。

消費指数の内訳は景気判断指数が▲73.1（前期差：▲3.6）、暮らし向き指数が▲54.9（前期差：0.9）となっており、景気判断指数の低下が消費指数の低下につながった。特に、景気と雇用環境に関する認識が悪化したことがマインド悪化につながった（次頁参照）。

なお、今後の見通しについても、消費指数が1.4ポイント低下し▲129.4となるなど、消費マインドの先行きは暗い。

図表 1 消費指数の推移



図表 2 消費指数の概要

調査時期	消費指数									
	景気判断指数					暮らし向き指数				
		景気	雇用環境	物価		世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり	
19年 9月	▲77.0	▲34.5	▲8.8	▲9.1	▲16.6	▲42.5	▲8.7	▲9.3	▲10.6	▲13.9
20年 6月	▲125.3	▲69.5	▲20.8	▲16.7	▲32.0	▲55.8	▲10.6	▲13.3	▲13.7	▲18.2
20年 9月	▲128.0	▲73.1	▲22.1	▲19.4	▲31.6	▲54.9	▲10.1	▲13.2	▲14.1	▲17.5
前期差 (寄与度)	▲2.7 ▲2.2%	▲3.6 ▲2.9%	▲1.3 ▲1.0%	▲2.7 ▲2.2%	0.4 0.3%	0.9 0.7%	0.5 0.4%	0.1 0.1%	▲0.4 ▲0.3%	0.7 0.6%
前年同期差 (寄与度)	▲51.0 ▲66.2%	▲38.6 ▲50.1%	▲13.3 ▲17.3%	▲10.3 ▲13.4%	▲15.0 ▲19.5%	▲12.4 ▲16.1%	▲1.4 ▲1.9%	▲3.9 ▲5.0%	▲3.5 ▲4.6%	▲3.6 ▲4.6%
20年 見通し	▲129.4	▲71.3	▲22.0	▲20.8	▲28.5	▲58.1	▲12.9	▲13.9	▲15.4	▲15.9

(注) 四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても消費指数（伸び率）とは必ずしも一致しません。

【指数の見方】

消費指数は①景気判断指数と②暮らし向き指数の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します（詳しくはIV. 調査の概要6. 指数の作成方法をご覧ください）。

図表 3 消費指数（内訳）の推移

消費指数

調査時期	消費指数	景気判断指数			暮らし向き指数					
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
18年 9月	▲ 63.3	▲ 23.7	▲ 6.1	▲ 3.6	▲ 14.0	▲ 39.6	▲ 8.0	▲ 9.7	▲ 8.6	▲ 13.3
12月	▲ 64.0	▲ 23.0	▲ 7.6	▲ 5.0	▲ 10.5	▲ 40.8	▲ 8.0	▲ 10.1	▲ 9.4	▲ 13.4
19年 3月	▲ 54.5	▲ 17.3	▲ 4.7	▲ 4.0	▲ 8.6	▲ 37.2	▲ 6.8	▲ 9.0	▲ 8.5	▲ 12.9
6月	▲ 65.0	▲ 26.0	▲ 5.6	▲ 3.9	▲ 16.4	▲ 39.2	▲ 6.8	▲ 9.9	▲ 9.6	▲ 12.8
9月	▲ 77.0	▲ 34.5	▲ 8.8	▲ 9.1	▲ 16.6	▲ 42.5	▲ 8.7	▲ 9.3	▲ 10.6	▲ 13.9
12月	▲ 104.7	▲ 55.5	▲ 15.2	▲ 12.1	▲ 28.2	▲ 49.2	▲ 10.3	▲ 11.4	▲ 11.7	▲ 15.8
20年 3月	▲ 107.3	▲ 57.9	▲ 16.2	▲ 13.3	▲ 28.4	▲ 49.4	▲ 9.9	▲ 11.3	▲ 12.3	▲ 15.9
6月	▲ 125.3	▲ 69.5	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 32.0	▲ 55.8	▲ 10.6	▲ 13.3	▲ 13.7	▲ 18.2
9月	▲ 128.0	▲ 73.1	▲ 22.1	▲ 19.4	▲ 31.6	▲ 54.9	▲ 10.1	▲ 13.2	▲ 14.1	▲ 17.5
見通し	▲ 129.4	▲ 71.3	▲ 22.0	▲ 20.8	▲ 28.5	▲ 58.1	▲ 12.9	▲ 13.9	▲ 15.4	▲ 15.9

(前期差)

調査時期	消費指数	景気判断指数			暮らし向き指数					
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
18年 9月										
12月	▲ 0.7	0.7	▲ 1.5	▲ 1.4	3.5	▲ 1.2	0.0	▲ 0.4	▲ 0.8	▲ 0.1
19年 3月	9.5	5.7	2.9	1.0	1.9	3.6	1.2	1.1	0.9	0.5
6月	▲ 10.5	▲ 8.7	▲ 0.9	0.1	▲ 7.8	▲ 2.0	0.0	▲ 0.9	▲ 1.1	0.1
9月	▲ 12.0	▲ 8.5	▲ 3.2	▲ 5.2	▲ 0.2	▲ 3.3	▲ 1.9	0.6	▲ 1.0	▲ 1.1
12月	▲ 27.7	▲ 21.0	▲ 6.4	▲ 3.0	▲ 11.6	▲ 6.7	▲ 1.6	▲ 2.1	▲ 1.1	▲ 1.9
20年 3月	▲ 2.6	▲ 2.4	▲ 1.0	▲ 1.2	▲ 0.2	▲ 0.2	0.4	0.1	▲ 0.6	▲ 0.1
6月	▲ 18.0	▲ 11.6	▲ 4.6	▲ 3.4	▲ 3.6	▲ 6.4	▲ 0.7	▲ 2.0	▲ 1.4	▲ 2.3
9月	▲ 2.7	▲ 3.6	▲ 1.3	▲ 2.7	0.4	0.9	0.5	0.1	▲ 0.4	0.7
見通し	▲ 1.4	1.8	0.1	▲ 1.4	3.1	▲ 3.2	▲ 2.8	▲ 0.7	▲ 1.3	1.6

(前年同期差)

調査時期	消費指数	景気判断指数			暮らし向き指数					
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
18年 9月										
12月										
19年 3月										
6月										
9月	▲ 13.7	▲ 10.8	▲ 2.7	▲ 5.5	▲ 2.6	▲ 2.9	▲ 0.7	0.4	▲ 2.0	▲ 0.6
12月	▲ 40.7	▲ 32.5	▲ 7.6	▲ 7.1	▲ 17.7	▲ 8.4	▲ 2.3	▲ 1.3	▲ 2.3	▲ 2.4
20年 3月	▲ 52.8	▲ 40.6	▲ 11.5	▲ 9.3	▲ 19.8	▲ 12.2	▲ 3.1	▲ 2.3	▲ 3.8	▲ 3.0
6月	▲ 60.3	▲ 43.5	▲ 15.2	▲ 12.8	▲ 15.6	▲ 16.6	▲ 3.8	▲ 3.4	▲ 4.1	▲ 5.4
9月	▲ 51.0	▲ 38.6	▲ 13.3	▲ 10.3	▲ 15.0	▲ 12.4	▲ 1.4	▲ 3.9	▲ 3.5	▲ 3.6
見通し	▲ 24.7	▲ 15.8	▲ 6.8	▲ 8.7	▲ 0.3	▲ 8.9	▲ 2.6	▲ 2.5	▲ 3.7	▲ 0.1

(寄与度、前期差)

調査時期	消費指数(伸び率%)	景気判断指数			暮らし向き指数					
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
18年 9月										
12月	▲ 1.1%	1.1%	▲ 2.4%	▲ 2.2%	5.5%	▲ 1.9%	0.0%	▲ 0.6%	▲ 1.3%	▲ 0.2%
19年 3月	14.8%	8.9%	4.5%	1.6%	3.0%	5.6%	1.9%	1.7%	1.4%	0.8%
6月	▲ 19.3%	▲ 16.0%	▲ 1.7%	0.2%	▲ 14.3%	▲ 3.7%	0.0%	▲ 1.7%	▲ 2.0%	0.2%
9月	▲ 18.5%	▲ 13.1%	▲ 4.9%	▲ 8.0%	▲ 0.3%	▲ 5.1%	▲ 2.9%	0.9%	▲ 1.5%	▲ 1.8%
12月	▲ 36.0%	▲ 27.3%	▲ 8.3%	▲ 3.9%	▲ 15.1%	▲ 8.7%	▲ 2.1%	▲ 2.7%	▲ 1.5%	▲ 2.4%
20年 3月	▲ 2.5%	▲ 2.3%	▲ 1.0%	▲ 1.1%	▲ 0.2%	▲ 0.2%	0.4%	0.1%	▲ 0.6%	▲ 0.1%
6月	▲ 16.8%	▲ 10.8%	▲ 4.3%	▲ 3.2%	▲ 3.4%	▲ 6.0%	▲ 0.7%	▲ 1.9%	▲ 1.3%	▲ 2.1%
9月	▲ 2.2%	▲ 2.9%	▲ 1.0%	▲ 2.2%	0.3%	0.7%	0.4%	0.1%	▲ 0.3%	0.6%
見通し	▲ 1.1%	1.4%	0.1%	▲ 1.1%	2.4%	▲ 2.5%	▲ 2.2%	▲ 0.5%	▲ 1.0%	1.3%

(寄与度、前年同期差)

調査時期	消費指数(伸び率%)	景気判断指数			暮らし向き指数					
		景気	雇用環境	物価	世帯収入	資産価値	支出状況	暮らしのゆとり		
18年 9月										
12月										
19年 3月										
6月										
9月	▲ 21.7%	▲ 17.1%	▲ 4.3%	▲ 8.7%	▲ 4.1%	▲ 4.6%	▲ 1.1%	0.6%	▲ 3.1%	▲ 1.0%
12月	▲ 63.6%	▲ 50.8%	▲ 11.9%	▲ 11.1%	▲ 27.7%	▲ 13.1%	▲ 3.6%	▲ 2.0%	▲ 3.6%	▲ 3.8%
20年 3月	▲ 96.9%	▲ 74.5%	▲ 21.1%	▲ 17.1%	▲ 36.3%	▲ 22.4%	▲ 5.7%	▲ 4.2%	▲ 7.0%	▲ 5.5%
6月	▲ 92.8%	▲ 66.9%	▲ 23.4%	▲ 19.7%	▲ 24.0%	▲ 25.5%	▲ 5.8%	▲ 5.2%	▲ 6.3%	▲ 8.3%
9月	▲ 66.2%	▲ 50.1%	▲ 17.3%	▲ 13.4%	▲ 19.5%	▲ 16.1%	▲ 1.9%	▲ 5.0%	▲ 4.6%	▲ 4.6%
見通し	▲ 23.6%	▲ 15.1%	▲ 6.5%	▲ 8.3%	▲ 0.3%	▲ 8.5%	▲ 2.5%	▲ 2.4%	▲ 3.5%	▲ 0.1%

(注) 四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても消費指数(伸び率)とは必ずしも一致しません。

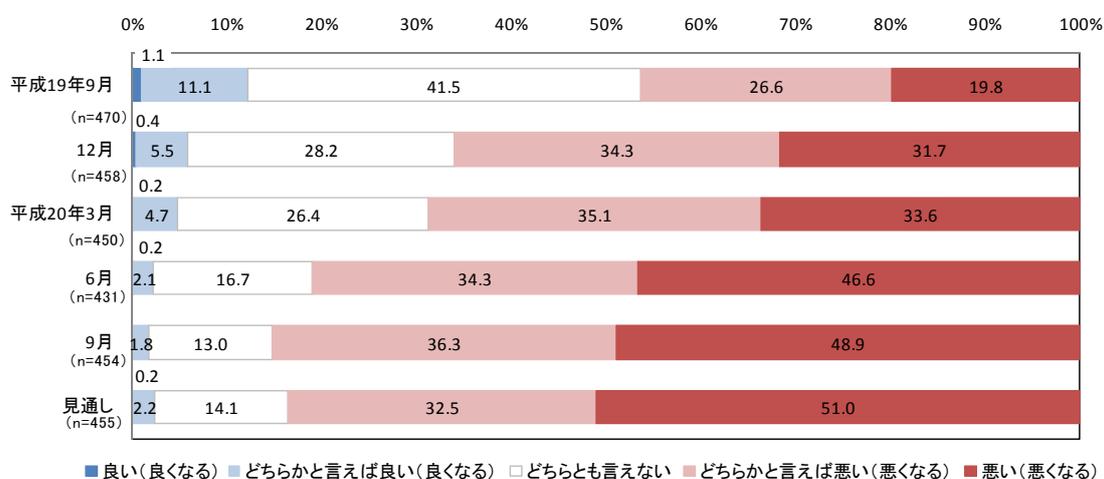
Ⅱ. 調査結果

1. 景気判断と見通し

① 県内景気

現状認識は「悪い」(48.9%)と「どちらかと言えば悪い」(36.3%)を合わせると85.2%の世帯が悪いと判断しており、県内の景気に対する不安感は拡大している。また、今後の見通しについても「悪くなる」(51.0%)および「どちらかと言えば悪くなる」(32.5%)と考えている世帯が83.5%となるなど、先行き不安感も依然として高い。

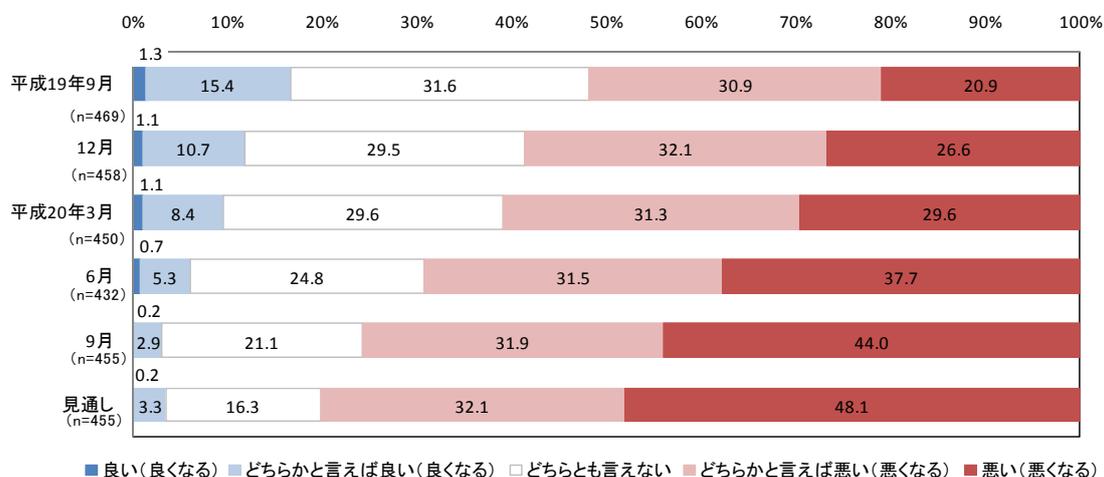
図表 4 県内景気に対する認識



② 雇用環境

現状認識は「悪い」(44.0%)と「どちらかと言えば悪い」(31.9%)を合わせると75.9%の世帯が悪いと判断しているなど、雇用環境の悪化に対する警戒感は厳しさを増している。また、今後の見通しについても「悪くなる」(48.1%)および「どちらかと言えば悪くなる」(32.1%)と考えている世帯が80.2%となっており、先行き不安感も高い。

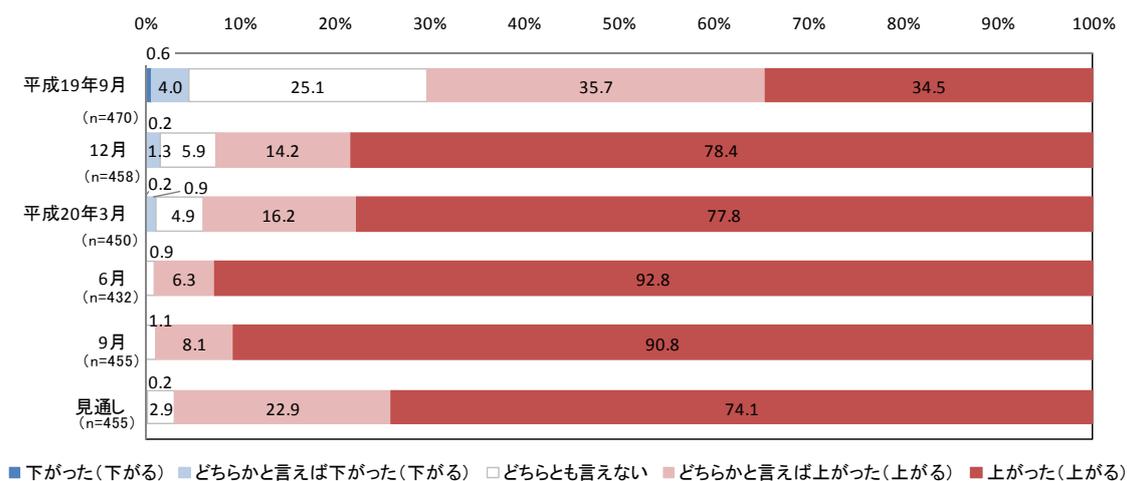
図表 5 雇用環境に対する認識



③ 日用品価格（物価）

現状認識は「上がった」（90.8%）と「どちらかと言えば上がった」（8.1%）を合わせると 98.9%の世帯が上がったと感じており、引き続きほぼすべての世帯で物価の上昇を実感している。また、今後の見通しについても、「上がる」（74.1%）および「どちらかと言えば上がる」（22.9%）と考えている世帯が9割を超えているなど、引き続き物価上昇に警戒感を募らせている世帯が多い。

図表 6 日用品価格（物価）に対する認識



図表 7 景気・雇用・物価などに関する主な自由回答

(住まい、世帯主年齢、世帯収入)

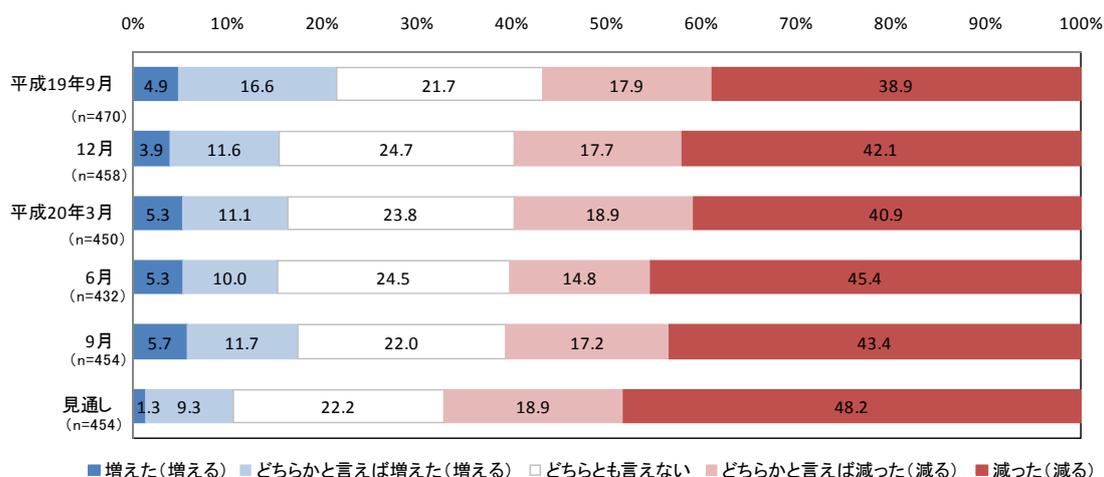
- ・ 株式市場の下落で困っている。景気の不安、インフレ、早く良くなってほしい。(村山地区 56 歳 800 万～)
- ・ 景気回復と併せて、物価安定を願う。(村山地区 60 歳 -)
- ・ 物価が上がったり、首相が突然辞めたりと、不安だらけ。公共交通が不備な山形では車は欠かせないし、これから灯油の価格も気になる。(置賜地区 46 歳 500～799 万)
- ・ 物価上昇で遣り繰りが大変になっている。新総理には期待できるのかどうか。(村山地区 57 歳 500～799 万)
- ・ 経済状況は悪くなっていく一方。雇用も安定しない世の中、何とかして欲しいものである。(庄内地区 57 歳 800 万～)
- ・ 10 年前から給料は変わっていない。景気が上昇した際にも実感もなかったが、今後景気が下がると、食料費が上昇している為、さらなる家計への圧迫が予想される。(村山地区 36 歳 300～499 万)
- ・ 山形の企業がどんどん倒産して、これからも増えそうで心配。活力もなく、山形自体が暗い感じがする。(村山地区 32 歳 300～499 万)
- ・ 夫の会社は人員削減が始まるようだ。今回収支状況を見て、私の収入がなければギリギリの生活なのだと改めて感じた。子供も欲しいと思っているが、育てていけるか不安もある。今はローンの繰り上げ返済に頑張っている。(置賜地区 34 歳 500～799 万)
- ・ 周りを見ても景気が悪いのが分かる。ハローワークに行っても 40 分待ちで、賑わっているのはここだけという感じ。仕事もお金もどうなっていくのかわからないので、できるだけ無駄をなくす努力をしないとイケない。(置賜地区 60 歳 ~299 万)
- ・ 私の職場が倒産した。今年はリストラや倒産が多く、失業保険の手続が結構あるとのこと。教育費等これからお金がかかるのに、雇用不安や相変わらずの値上げ等、とても暮らしていくのに困る事ばかり。最近では夫の会社も…という噂も聞こえてきて、2 人で頭を悩ませている。(庄内地区 39 歳 300～499 万)
- ・ 雇用については、自分が事務パートに就いたので、良いようにも思えるが、実際はまだまだなのではないかと思う。私はラッキーだっただけではないか。(庄内地区 41 歳 500～799 万)
- ・ 今年、世帯主の勤務先が倒産し、なんとか 2 ヶ月後には再就職先が決まったが、収入は 25% 減。これからの生活が不安である。(村山地区 48 歳 300～499 万)
- ・ 日用品や食材等、欠かせないもの、買い控えが不可能なものの価格が上がっている。ジワジワと生活が苦しくなることを身近に感じ、不安になる日々。老後を考えるとさらに不安になる。(村山地区 54 歳 800 万～)
- ・ ガソリンの値上げに続き食品の値上げ。家計はこれに左右され不安定な状態。就労の状態も良くなく、転職ということになれば、先が見えない。安定した生活は、いつになったら来るのか。家計に優しい情報もなく、地域振興券があった頃が懐かしい。(最上地区 39 歳 300～499 万)
- ・ 物価が高くてとても困っている。家計は赤字で貯金を崩して生活しており今後がとても不安である。投資に興味はあるものの、何を選べばよいか分からず困っている。これからの格差社会をどう生活していけばいいのか、日本経済は今後どうなっていくのかとても心配。私達は年金が本当にもらえるのかも最大の関心事でもあるし、高齢者医療制度もどうなっていくのか、とても注目している。(村山地区 58 歳 ~299 万)
- ・ 物価、ガソリンの値上げ、住宅ローンの返済があるので、家計が苦しい。買物には自転車を使い節約している。冬に向かって電気代も気になる。雇用環境に関しても、育児しながら働ける場所がないため、家計になかなかゆとりが生まれない。(村山地区 35 歳 300～499 万)
- ・ ガソリンや食料品の値上がりが続くが、給与に物価上昇が反映されず、家計にしわ寄せがきている。構造的なものは救済措置をとってほしい。(村山地区 39 歳 500～799 万)
- ・ ガソリンの値上がりで遠出が減り、食料の値上がりで安いものを探すようになってきた。今後も値上がりが続くそうで心配である。(村山地区 51 歳 500～799 万)
- ・ ガソリンが 9 月に入って少し安くなったので助かる。パン好きにとって値上げは厳しい。(村山地区 37 歳 ~299 万)
- ・ 現在育児休業中。復職後のガソリン代や保育料、食費の値上げ等で予定が立てられない。家計の状態が予測できないので、子供を大学まで入れられるか心配。家計が圧迫されている感じがおり、余裕のある生活ができない。また、夫の給料も年齢とともに上がらない事に驚いた。夫 1 人の収入では大変である。(村山地区 23 歳 ~299 万)
- ・ 物価が上がっているが、金額的にはそれほど負担ではない。が、報道等で何度も耳にするため、今後の事を考えると不安をかきたてられるようで、消費意欲も減退する。(村山地区 39 歳 800 万～)
- ・ 値上げ続きでとても困る。買物に行っても、「我慢」したり「今日は必要ないか」と悩んだり。収入が減っているなかでの値上げは、消費意欲減退の一大要因である。減税にならないかと思う。(村山地区 43 歳 300～499 万)
- ・ 食料品の値上げが相次ぎ、また、冬場の灯油の値段が気になる。(村山地区 36 歳 300～499 万)

2. 暮らし向き判断と見通し

① 世帯（勤労）収入

現状認識は「減った」(43.4%)と「どちらかと言えば減った」(17.2%)を合わせると60.6%の世帯が減ったと感じている。また、今後の見通しについても、収入が「減る」(48.2%)および「どちらかと言えば減る」(18.9%)と考えている世帯が67.1%となるなど、依然として収入が増えると期待する世帯は少ない。

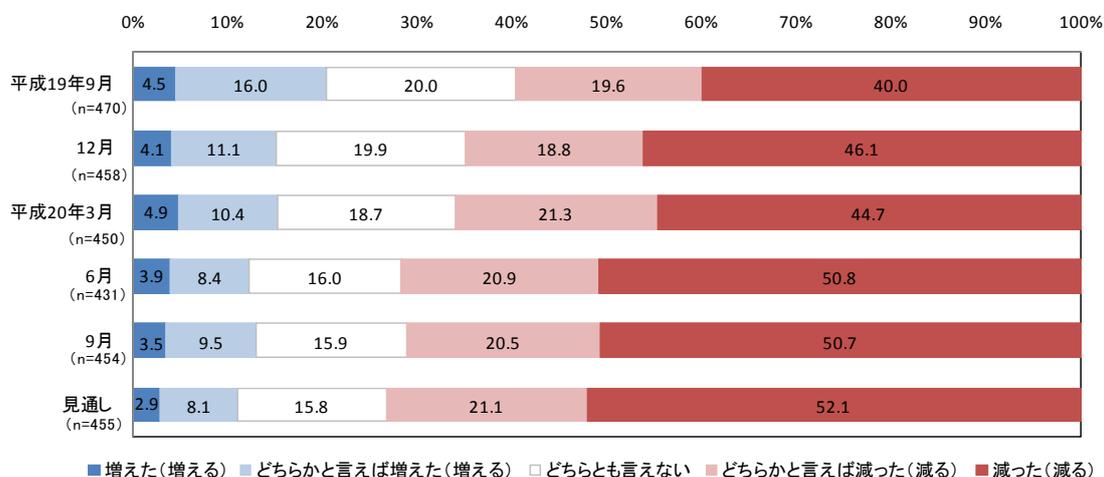
図表 8 世帯（勤労）収入に対する認識



② 資産価値

現状認識は「減った」(50.7%)と「どちらかと言えば減った」(20.5%)を合わせると71.2%の世帯が資産価値は減ったと感じているなど、資産価値の下落を気にする世帯は多い。また、今後の見通しについても資産価値は「減る」(52.1%)および「どちらかと言えば減る」(21.1%)と考えている世帯の割合が73.2%となっており、資産価値の下落に警戒感が強まっている。

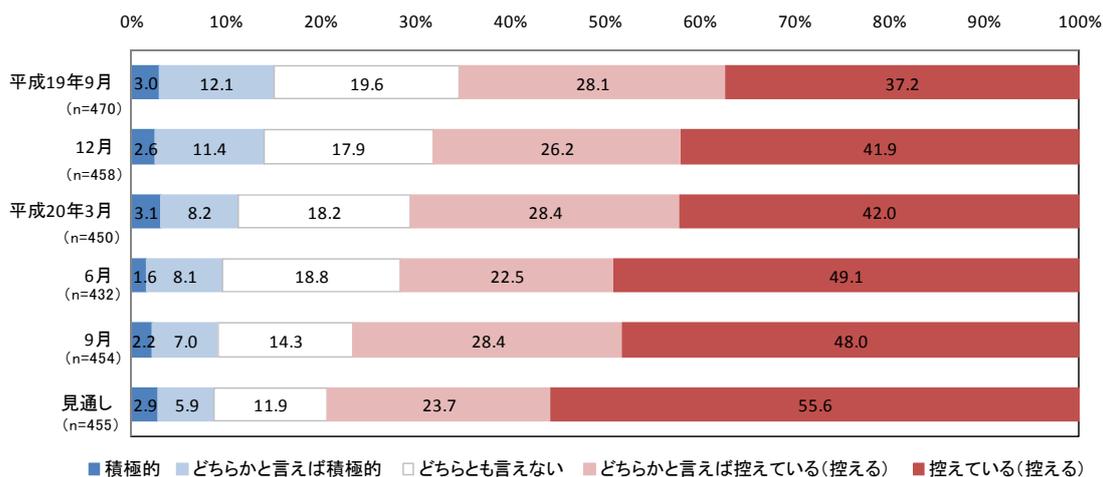
図表 9 資産価値に対する認識



③ お金の使い方（支出状況）

現状認識は「控えている」（48.0％）と「どちらかと言えば控えている」（28.4％）を合わせると76.4％の世帯がお金を使うことを控えているなど、支出意欲は徐々に低下している。また、今後の見通しについても「控える」（55.6％）および「どちらかと言えば控える」（23.7％）という世帯が79.3％と拡大傾向にあり、今後はさらに節約思考が強まる見込み。

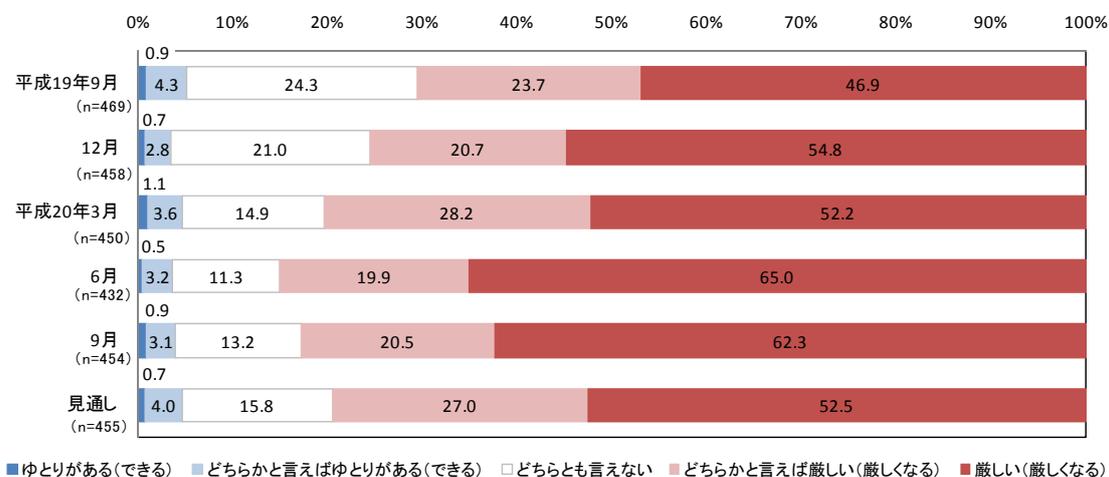
図表 10 お金の使い方（支出状況）に対する認識



④ 生活のゆとり

現状認識は「厳しい」（62.3％）と「どちらかと言えば厳しい」（20.5％）を合わせると82.8％の世帯が厳しいと感じているなど、生活のゆとりを実感できない世帯は多い。また、今後の見通しについては、「厳しくなる」（52.5％）および「どちらかと言えば厳しくなる」（27.0％）と見込む世帯が79.5％となっており、依然として生活のゆとりが見込めないと考えている世帯が多い。

図表 11 生活のゆとりに対する認識



図表 12 収入・資産・お金の使い方・生活のゆとりに関する主な自由回答

(住まい、世帯主年齢、世帯収入)

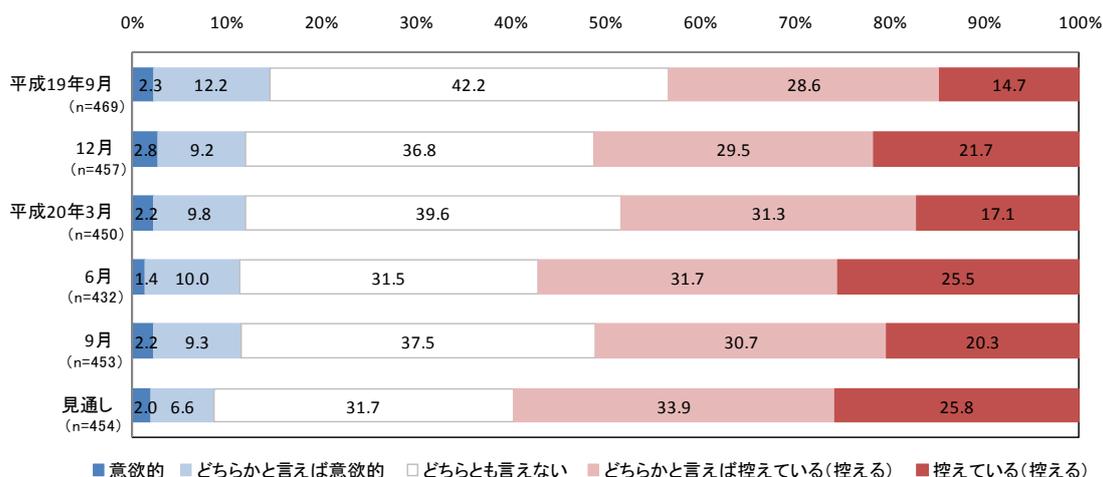
- ・ 高3の長男の進学資金の調達が大変である。私立理系の初年度納付金 150 万円、それに生活費を加えると年間 300 万円必要となり、負担が大きい。(庄内地区 46 歳 800 万～)
- ・ 7月に入って夫の会社が残業規制になり、収入が大幅に減った(約8万)。夫の小遣いやレジャー費を減らし、私も内職のほかに土・日のバイトを始めた。子供を授かって、子育てはお金にかえられないと思い、今まで遣り繰りしてきたが、この現状では働いて収入を増やすしかないと思う。老後のために少しでも貯金したいという思いと、今この時の子供の成長をゆっくり見守りたいという希望とがあり、結局はお金なのかというジレンマがある。(置賜地区 38 歳 300～499 万)
- ・ ボーナスが毎回減っている。夫婦で業種が異なっているのに減っているのは、やはり全体の景気が悪いという事だと思う。(村山地区 39 歳 500～799 万)
- ・ 夫の夏のボーナスが出なかった。1 週間悩んだ。長男、長女の後期学費 100 万。次男は高 2。3 人の子供が就職したら、どれほど楽になるか。(置賜地区 73 歳 300～499 万)
- ・ 収入は減少し、支出は増える一方で暮らしは大変になるばかり。(村山地区 44 歳 ～299 万)
- ・ 支出ばかりがどんどん増えていくため将来に不安を感じるようになった。何か備えておかなければという思いから、金融商品に興味を持つようになった。(庄内地区 34 歳 500～799 万)
- ・ 子供の教育費が毎月かかってくるようになると、家計の考え方ががらりと変わってきた。節約しないといけないということもあるが、計画的に貯金していかないと考えています。(村山地区 34 歳 300～499 万)
- ・ 最近は値上りで、本当に必要なものしか買わなくなり、家計が本当に苦しくなったと感じる。貯金や投資にまで手が回らず、むしろ切り崩すことが多くなった。(庄内地区 45 歳 300～499 万)
- ・ 投信をしていたがサブプライム問題で預けていた金額が2/3になってしまった。リスクは考えたつもりだったがこんな事になるとは。家族には内緒である。老後の年金はもらえないと考え保険会社の個人年金に加入した。(置賜地区 25 歳 300～499 万)
- ・ 投資性の強い利回りのいいもので運用したいと考えるが、市場が良くないのでひかえたい状況である。(置賜地区 36 歳 800 万～)
- ・ エコを実践中だ。私は楽しくやっているつもりだが、他の人はどうかなというところもある。通勤も自転車を利用している。物価が上がったことで、今までの無駄に目を向けられたように思う。先行きが暗い分、前向きにいきたい。(置賜地区 36 歳 500～799 万)
- ・ 日替わり特売品で買いためをしている。底値チェックをしっかりとっている。(村山地区 59 歳 800 万～)
- ・ エコ生活を積極的に取り入れているが、そのことが生活環境の改善のみならず、物を大事にすることの大切さや節約生活につながっており、我が家の環境にも優しく反映されている。(村山地区 35 歳 500～799 万)
- ・ 値段が上がっている為、同じ金額でも買える量が少ない。燃料が高くて、極力節約している。週末は車を利用しないように、ポイラーも必要な時だけで、食器洗いは水でしている。今後どのように生活していけばよいのか不安。(置賜地区 54 歳 300～499 万)
- ・ 遠出のレジャーを避け、自宅で過ごすことが多くなった。図書館で本を借りて子供と読んだり、なるべく退屈しない夏休みを色々実践した。(村山地区 28 歳 300～499 万)
- ・ 暮らしに必要なものばかり値上げされ、この先、家計はますます厳しくなる。不安だ。とりえず大きなローンを組まないようにと考えている。(庄内地区 44 歳 500～799 万)
- ・ 8 月は帰省客や大学生の子供の仕送りが必ず増える。日頃は質素にし、行事の時は預金を引き出し十分楽しむ。生活にメリハリをつけないと息が詰まってしまう。盆と正月はゆっくり楽しみたい。(庄内地区 58 歳 500～799 万)
- ・ ガソリンはまた値上りしてきた。幸い職場が近くてよかったが、レジャーは控えている。限られた月々の給料で、どれだけバランスよく生活していけるかを消費者側が学んでいかなくてはならないと思う。(庄内地区 88 歳 500～799 万)
- ・ 積極的にお金を使いたい気持ちはあるが、必要経費を支出すると不可能である。切り詰めても、慶弔費などは避けるわけにはいかず、楽しむために使えるお金はない。(村山地区 48 歳 500～799 万)
- ・ 毎月の貯蓄はなかなかできないので、子供のための貯蓄に児童手当はとも助かっている。(村山地区 33 歳 ～299 万)
- ・ 生活必需品が値上り傾向にあり、5 月からパートに出て、世帯収入増になった。家族への負担は増えたが、余裕が出てきた。(庄内地区 40 歳 500～799 万)
- ・ 専業主婦として子育てをとるか、共働きで収入をとるかが悩み。今しかできない子育てに専念している今、家計は火の車である。なんとかギリギリの生活をしていて、ゆとりはないが幸せな日々である。(置賜地区 31 歳 300～499 万)

3. 日常の買い物に関する判断と見通し

① 嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）

現状認識は「控えている」（20.3%）と「どちらかと言えば控えている」（30.7%）を合わせると 51.0%の世帯が嗜好品の購入を控えている。また、今後の見通しについても購入を控えると考えている世帯が多く、買い控える傾向はさらに高まる見込み。

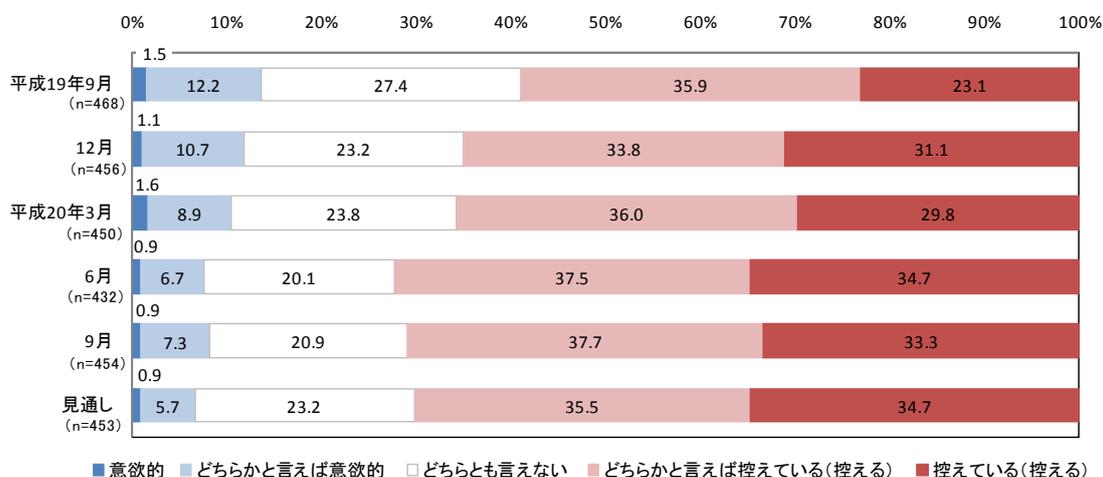
図表 13 嗜好品の購入意向



② ファッション衣料・靴など

現状認識は「控えている」（33.3%）と「どちらかと言えば控えている」（37.7%）を合わせると 71.0%の世帯が購入を控えているほか、買い控える傾向が高まっている。また、今後の見通しについても購入を控えると考えている世帯は根強く残っており、買い控えの傾向が続く見込み。

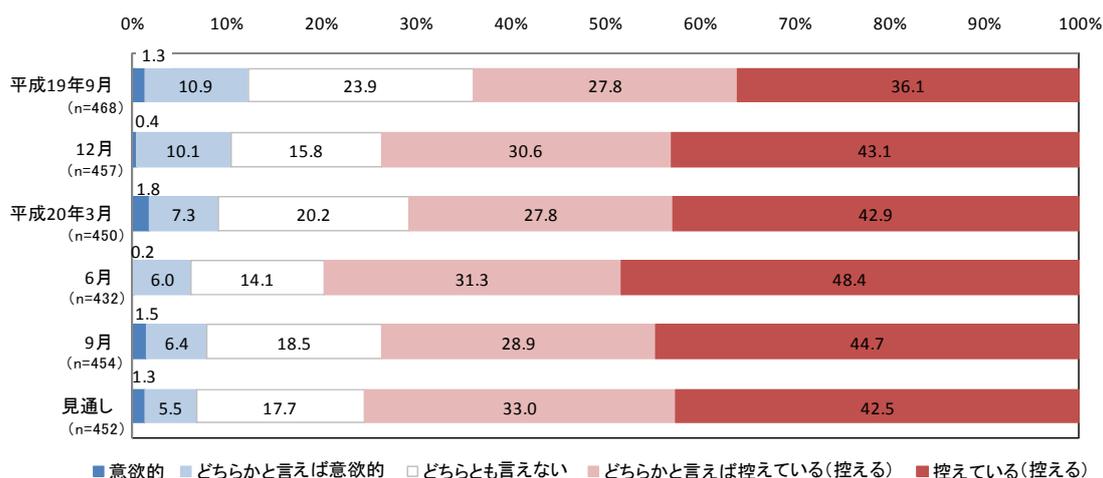
図表 14 ファッション衣料・靴などの購入意向



③ 家電・AV製品、家具など

現状認識は「控えている」(44.7%)と「どちらかと言えば控えている」(28.9%)を合わせると73.6%の世帯が購入を控えている。また、今後の見通しについても購入を控えると考えている世帯は多く、買い控えの傾向が続く見込み。

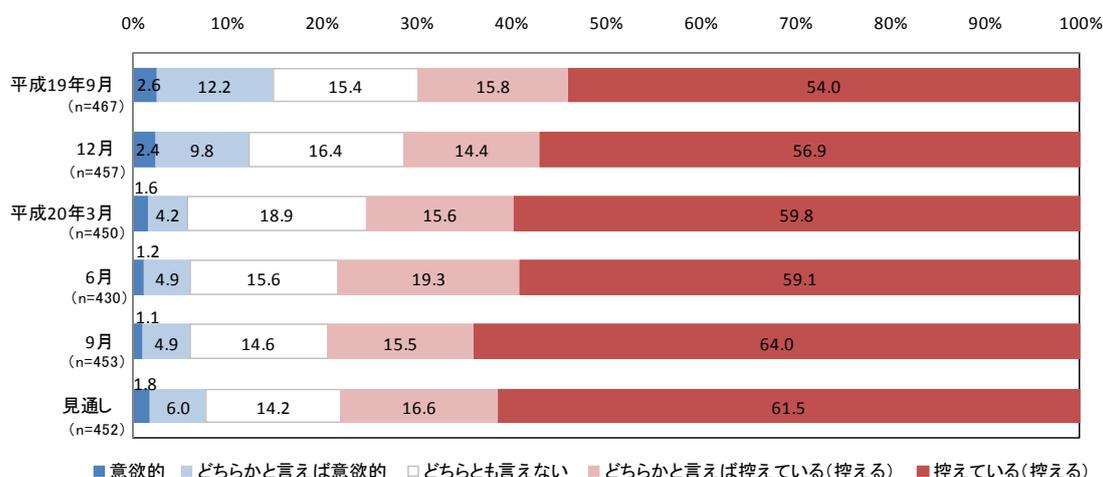
図表 15 家電・AV製品・家具などの購入意向



④ 金融商品(株式、債券など)

現状認識は「控えている」(64.0%)と「どちらかと言えば控えている」(15.5%)を合わせると79.5%の世帯が購入を控えているほか、買い控える傾向も徐々に高まっている。また、今後の見通しについても、購入を控えると考えている世帯が依然として多く、買い控える傾向は続く見込み。

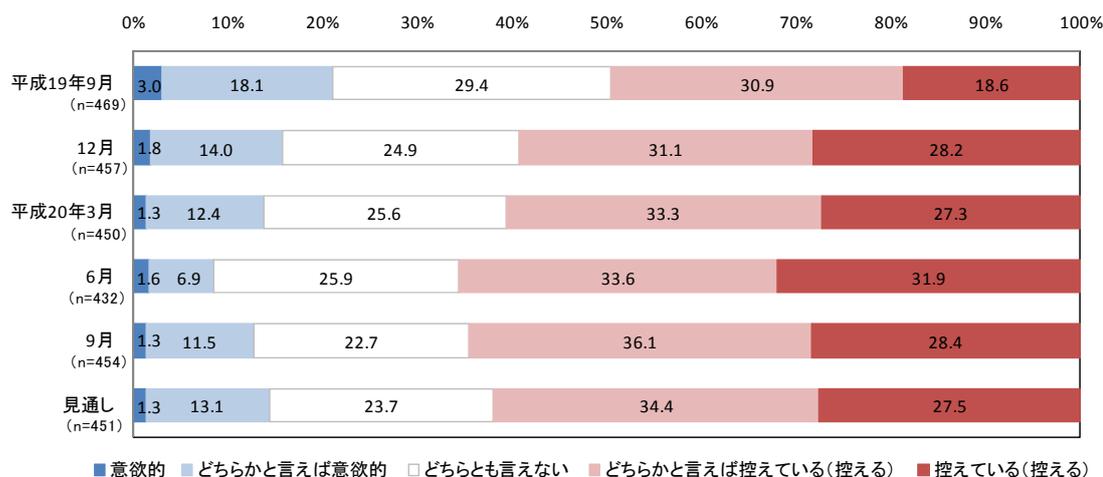
図表 16 金融商品の購入意向



⑤ 娯楽・レジャー

現状認識は「控えている」(28.4%)と「どちらかと言えば控えている」(36.1%)を合わせると64.5%の世帯が支出を控えているが、ここに来て支出に意欲的な世帯の割合も高まっている。今後の見通しについては、引き続き支出を控える世帯は多いが、基調として支出に意欲的な世帯の高まりが期待できる。

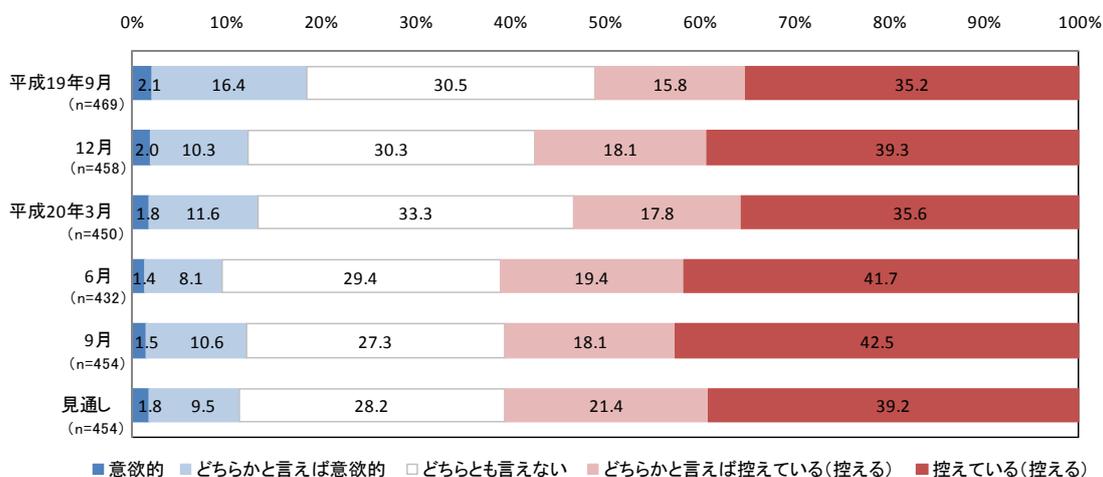
図表 17 娯楽・レジャーへの支出意向



⑥ 習い事

現状認識は「控えている」(42.5%)と「どちらかと言えば控えている」(18.1%)を合わせると60.6%の世帯が支出を控えている。また、今後の見通しについても、支出を控えると考えている世帯は多い。

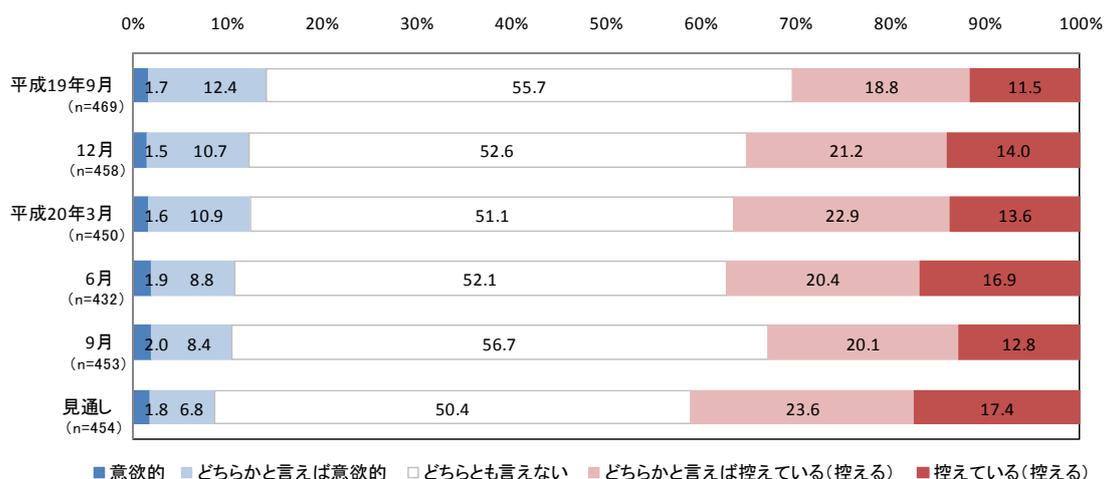
図表 18 習い事への支出意向



⑦ 交際費

現状認識は「どちらとも言えない」と回答した世帯が過半数を超えているものの、「控えている」(12.8%)と「どちらかと言えば控えている」(20.1%)を合わせると32.9%の世帯が支出を控えている。また、今後の見通しについても、交際費の支出を控えると考えている世帯が増えており、支出を手控える傾向がさらに強まる見込み。

図表 19 交際費の支出意向

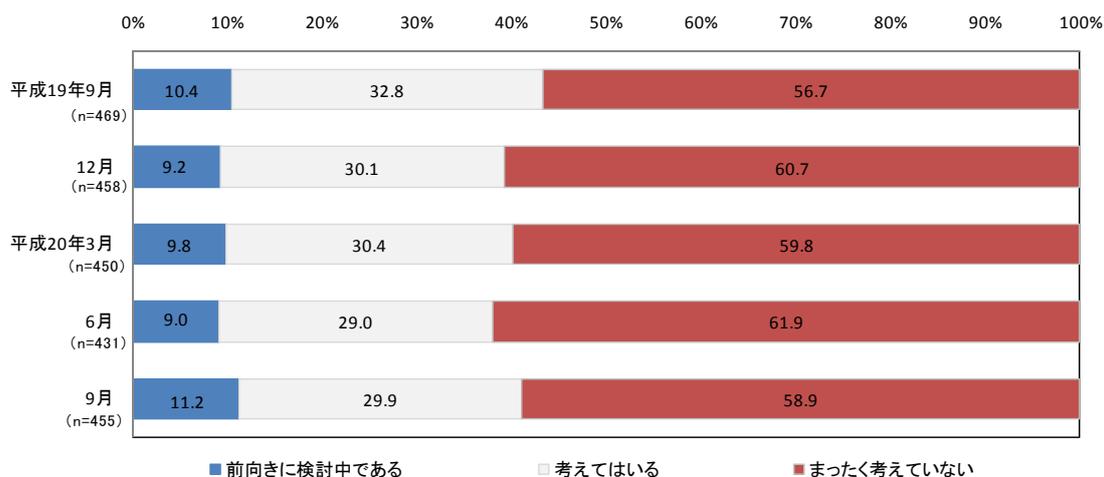


4. 大きな買い物に関する判断と見通し

① 自家用車

自家用車の購入については「まったく考えていない」という世帯が58.9%を占めている。昨年同期と比べて「まったく考えていない」という世帯の割合が2.2%ポイント増えており、購入を控える傾向が高まっている。

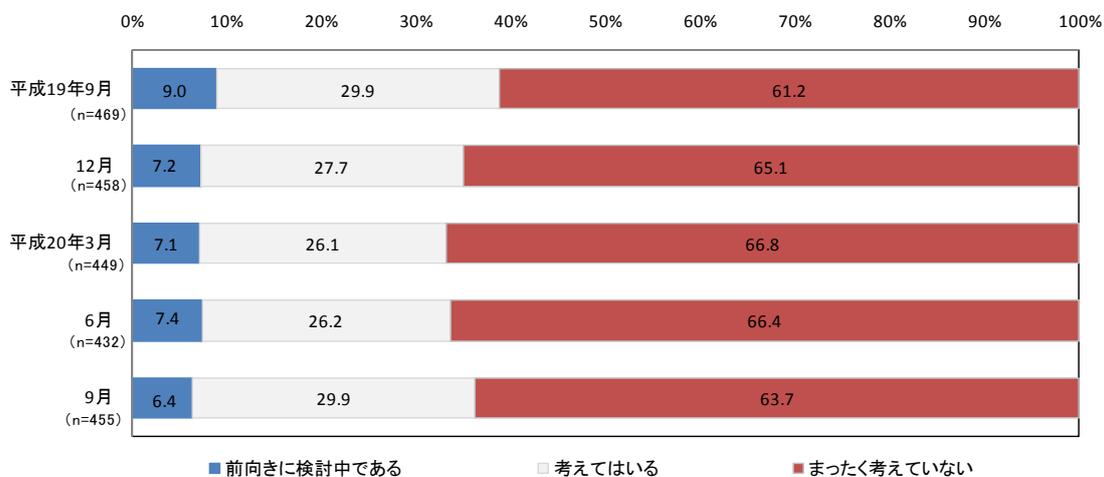
図表 20 自家用車の購入意向



② 住宅の購入・リフォーム

住宅の購入・リフォームについては「まったく考えていない」とする世帯が63.7%を占めている。昨年同期と比べて「まったく考えていない」とする世帯の割合が2.5%ポイント増えるなど、購入を控える傾向が高まっている。

図表 21 住宅の購入・リフォームの意向



Ⅲ. 今月の家計簿

今回の家計簿調査によれば、世帯の平均収入は47.1万円となっており、前年同期比でみて5.3%の減収となった。特に、世帯主の収入が3.3万円の減収（寄与度：▲6.5%）と大きかったことが収入減の主な要因。

一方、世帯の平均支出は37.5万円となっており、前年同期比でみて0.2%の増加となった。特に、「水道・光熱費」や「通信・交通費」などの支出が増えており、最近のエネルギー価格の高騰による影響が出ていると思われる。

なお、平均消費性向は79.6%であり、前年同期比でみて4.3ポイント増加した。

図表 22 収入・支出の動向

(単位:円)

		19年 9月	20年 6月	9月	前期差	寄与度	前年同期差	寄与度
収入	①定期収入	249,777	239,188	236,564	▲2,624	▲0.6%	▲13,213	▲2.7%
	②臨時収入	41,522	4,478	22,189	17,711	3.9%	▲19,333	▲3.9%
	1. 世帯主の収入	291,299	243,666	258,753	15,087	3.4%	▲32,546	▲6.5%
	①他の人員の定期収入	115,873	118,404	118,191	▲213	▲0.0%	2,318	0.5%
	②他の人員の臨時収入	22,795	7,708	15,912	8,204	1.8%	▲6,883	▲1.4%
	2. 他の人員の収入	138,668	126,112	134,103	7,991	1.8%	▲4,565	▲0.9%
	①社会保障給付	27,339	22,608	33,522	10,914	2.4%	6,183	1.2%
	②預(貯)金引き出し	22,280	41,512	35,131	▲6,381	▲1.4%	12,851	2.6%
	③借入れ	2,702	7,412	2,792	▲4,620	▲1.0%	90	0.0%
	④財産売却	387	115	0	▲115	▲0.0%	▲387	▲0.1%
	⑤その他	14,726	8,788	6,767	▲2,021	▲0.4%	▲7,959	▲1.6%
	3. その他収入	67,434	80,435	78,212	▲2,223	▲0.5%	10,778	2.2%
	I. 収入計	497,401	450,213	471,068	20,855	4.6%	▲26,333	▲5.3%
	支出	1. 食費	58,022	57,825	58,540	715	0.2%	518
2. 住居費		45,231	59,102	47,190	▲11,912	▲3.1%	1,959	0.5%
3. 水道・光熱費		22,338	26,344	23,784	▲2,560	▲0.7%	1,446	0.4%
4. 通信・交通費		31,880	34,234	33,556	▲678	▲0.2%	1,676	0.4%
5. 被服・装飾費		11,791	11,900	11,160	▲740	▲0.2%	▲631	▲0.2%
6. 各種保険料の支払い		44,320	39,969	38,811	▲1,158	▲0.3%	▲5,509	▲1.5%
7. 医療・介護費		11,940	14,667	10,719	▲3,948	▲1.0%	▲1,221	▲0.3%
8. 育児・教育費		26,571	26,118	28,214	2,096	0.5%	1,643	0.4%
9. 仕送り		9,065	10,908	9,317	▲1,591	▲0.4%	252	0.1%
10. 小遣い		45,586	41,824	42,907	1,083	0.3%	▲2,679	▲0.7%
11. ローン・月賦の支払い		19,564	17,537	16,145	▲1,392	▲0.4%	▲3,419	▲0.9%
12. その他支出		48,112	45,408	54,787	9,379	2.4%	6,675	1.8%
II. 支出計	374,420	385,836	375,130	▲10,706	▲2.8%	710	0.2%	
平均消費性向(支出計÷収入計×100)		75.3%	85.7%	79.6%	▲6.1%	ポイント	4.3%	ポイント

(注) 四捨五入により、各項目の寄与度を足し合わせても収入計もしくは支出計の寄与度(伸び率)とは必ずしも一致しません。

IV. 調査の概要

1. 調査の目的

県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の方法

- ・ 郵送調査専属モニターを利用したアンケート調査
 - ・ モニター世帯数：473 世帯 ※今回の有効回答世帯数（回答率）：455 世帯（96.2%）
- （注）今回の調査を実施するにあたり、前回までのサンプルを一部入れ替えました。
前回からの継続サンプル数は 305 名、新規サンプル数は 168 名です。

3. 調査の対象者

- ・ 県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数 2 人以上の世帯）

4. 調査期間

- ・ 平成 20 年 9 月 1 日～16 日

5. 調査項目

（1）判断項目

- ① 景気判断（五肢択一）：
「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」に関する現状認識と見通し。
- ② 暮らし向き（五肢択一）：
「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する現状認識と見通し。
- ③ 日常の買い物や支出動向（五肢択一）：
「嗜好品（お酒、たばこなど）」、「ファッション衣料・靴など」、「家電・AV製品、家具など」、「金融商品（株式、債券など）」、「娯楽・レジャー」、「習い事」、「交際費」の支出に関する現状認識と見通し。
- ④ 大きな買い物や支出動向（三肢択一）：
「自家用車」、「住宅（リフォーム含む）」の支出に関する現状認識と見通し。

（2）計数項目

- ① 最近 1 ヶ月の収支状況

6. 指数の作成方法

- (1) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」、「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」の7項目について、回答者の回答結果にポイントを与える。
- (2) ポイントの与え方は、例えば「県内景気」については、「良い」(1.0)、「どちらかと言えば良い」(0.5)、「どちらとも言えない」(0.0)、「どちらかと言えば悪い」(▲0.5)、「悪い」(▲1.0)とする。
- (3) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」は家計を取り巻くマクロ経済環境に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「景気判断指数」としてまとめる。
- (4) 「世帯収入の増え方」、「資産価値の増え方」、「お金の使い方」、「暮らしのゆとり」は“我が家の暮らし向き”に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「暮らし向き指数」としてまとめる。
- (5) 「景気判断指数」と「暮らし向き指数」に対して質問項目数とサンプル数をウェイトとする係数を乗じ、両指数を標準化した上で足し合わせ、「消費指数」とする。

以上

<お問い合わせ先>

株式会社荘銀総合研究所

研究開発グループ 熊本／齋藤（信）

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017

FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@sfsi.co.jp

URL : <http://www.sfsi.co.jp/>